



一夜の夢

ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会 会長 森田 弘

平成24年6月9日中地区「ほたるを観る会」2日目、あいにくの天気で雨が降り続いていました。今回初めての試みとして“ほたるのビオトープ”で育ったほたるを“水辺のビオトープ”へ放つ事にしておりました。ビオトープ内のほたるではなく、自然界で飛んでいるほたるを観賞するためです。今日は残念ながら中止しなければならないか、検討しようとおもっていたら、子どもたちが保護者と共に集まってきました。手にはほたる籠、採集のための網と傘をさして。今日はたくさんほたるを取るぞと、意欲満々で、子供たちの熱気が伝わったのか雨は小降りになってきました。採取したほたるの雌雄の観察をしながら区別をしていると貴重な雌が1匹いました。来年のほたる飼育のため雌は飼育班へプレゼントしました。水辺のビオトープへ移り、自然界へほたるを放ちました。雨のためかあまり飛ばずに草に降りましたが、多くの鑑賞者からの拍手でにぎわいました。

中地区の自然界へほたるが飛び交うことを夢見た夜でした。夢を実現させるために今後ともよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます

中小学校長 佐藤 茂男

今年の「ほたるを観る会」が迫ってきた一週間前の6月1日の土曜日、朝早くから準備のためにほたるの会の皆さん、中公民館長さん、自治会長さん、PTA本部役員さんなど大勢の方が集まりました。提灯や看板を取り付けたり、遮光シートを張ったりしました。その後、ほたるの会の皆さんとPTA研修部員の方がほたるかご作りの研修をして、当日に備えました。

6月8日の式典の後のイベントでは、子ども達は役員さんたちに教えてもらいながら、ほたるの籠作りやほたるの折り紙などの活動に、楽しそうに参加していました。また今年は、2日目の「観る会」の終了間際に、子ども達がほたるのビオトープに入りほたるを捕まえました。森田会長さんにほたるについて教えてもらい、ほたるをかごに入れて体育館前の水辺のビオトープに放ちました。ほたるの光がとても幻想的でした。子ども達のために、ほたるに限らず田んぼや様々な活動に支援・協力してくださる地域の方々や保護者の皆さん、ありがとうございます。

幻想的なほたるの光

「ほたるを観る会」特集 ～ 今年も、ほたるがたくさん飛びました。～

ほたるが飛んでくれるだろうか。毎年「ほたるを観る会」前の日々は期待と心配が交錯します。しかし、1年間にわたって飼育して下さった飼育班の方々のおかげで今年も幻想的な光が大勢の人々に感動を提供することが出来ました。

式典後のイベントでも「折り紙のほたる」や「ほたる籠」編みに子どもと地域の人との交流が見られました。子どもたちの展示にも人々が立ち止まりその研究の様子を見てくださいました。売店の売り上げも上々で今年も「ほたるを観る会」は盛り上がりしました。

～ 子どもたちの感想 ～

いっぱいほたる 4年

ぼくは、ほたるを観る会で、はじめに式てんを見ました。その後にはじめてほたるかごを作って、クイズやほたるの折り紙もやりました。そして、8時30分ごろにはほたるが黄色い光をつけてとんでいました。とてもきれいでした。去年の2倍ぐらいとんでいました。

来年もほたるが見たい 5年

私は、ほたるを観る会で折り紙でホタルを作ったり、ホタルクイズなどをやりました。ホタルクイズは友達と協力して、全問正解してうれしかったです。でも、一番はホタルでした。ホタルはとてもきれいで、来年もきれいなホタルが見たいです。



ホタルをつかまえた 6年

蛍のほかくで、あみを使わず手でつかまえて、白い袋の中に入れ、蛍を水辺のビオトープに放ちました。つかまえた時、ボランティアの新井さんと増田さんにオスとメスの見分け方について聞きました。オスの方が光が大きく、メスの光は小さいそうです。メスが少なく、オスが多かったです。

ほたるを外に放した 6年

小学校最後のほたるを観る会でした。5年生から育ててきたほたるが飛んでくれるか心配でしたが、いっぱい飛んでくれたのでよかったです。今年はほたるのほかくがあり、つかまえたほたるを水辺のビオトープに放しました。葉にのせ、元気に育てほしいと願いました。また来年も飛んでほしいです。



毎年6月中旬に「ほたるを観る会」が開催されます。ほたると言えば「ほたる籠」これはセットで私達が子供のころは当たり前のように思われていましたが、今はほたる籠を見たこともない人がほとんどかとおもいます。昔は、ほたるを捕ってほたる籠に入れて遊んだ記憶があります。

さて、ほたるを観る会では、ほたる籠作りコーナーを設けて子供達やPTAの皆さんと一緒にほたる籠作りに挑戦していますが、毎年悪戦苦闘しながらも楽しくやっています。まず、教育班では「ほたるを観る会」の準備があります。それは、皆さんがすぐに籠作りが出来る様に、事前に麦わらを天日干ししてから、1本ずつ切って約2,000本用意します。これは非常に手間のかかる作業です。

それから、初めての籠作りの人もいて難しいので、PTAの皆様にはほたる籠作りの事前説明会を、昨年から実施していて非常に喜ばれています。苦労しながら出来上がった作品を手にすると、大人も子ども達もみんな達成感に感動し大喜びです。

広げよう！ 中小の「ほたる活動」

中小学校PTA会長 大森 利男

今年の「ほたるを観る会」は保護者やボランティアを含む地域の皆様の多数のご参加もあり、例年になく盛り上がりを見せ大成功に終わりました。紙面上ではありますがご協力・ご参加いただいた皆様に御礼申し上げます。

ところで今年のほたるを観る会の成功の要因として次の事があったと思います。

- ①ビオトープでのほたる捕獲と池への放流
- ②市内市外からの来訪者の増加

特に①についてはこれまでの「ほたるを観る会」から「ほたると触れ合う会」になったことで、より印象が強くなり思い出に残る行事になったと思います。また、②については2年前から市の広報紙にも掲載するようになったことでより知名度が高まったと思います。今後は中小のホームページでの掲載はもとより Facebook など時代にあった様々な媒体を使った告知も効果的で良いと思います。

最後に中小で11年間に渡って行われている「ほたる活動」は今や中小の一つの行事に留まらず、中地区の一大行事になっていますので、保護者や地域の皆様のご協力のもと、一緒になって大きくしていきたいと思っています。

自然の恵みに感謝

稲刈り・脱穀 収穫131kg

5月の連休明けに田植えをした稲も収穫の時期を迎えて、晴天のもと全校生とボランティアの皆様で9月5日に稲刈りを行いました。

今年の夏は猛暑が続き、雨も少なく心配しましたが131キロのお米が収穫できました。お米は「えのき祭」でカレーライスにして皆さんとともに味覚を楽しみにしたいです。

松本昭二様・地域のボランティア様方には大変お世話になりありがとうございました。

はじめてのいねかり

1年

あんなにちいさかったなえが、こんなにおおきくなるとはおもいませんでした。はじめていねかりをしてかまをじょうずにつかうことができました。



ボランティアさんといっしょに

3年

わたしは、いねかりをしました。おおぜいボランティアさんがきていっしょにいねをかりました。

いねがたくさんあつてかるのが大変でした。



いねかり

2年

ぼくは、さいしょどうやるのかわすれていたのので、うまくできませんでした。でもやっていたらだんだんなれてきて、うまくいくようになりました。きょねんとったきろく141キロをこしたいです。

らいねんもたのしくできるといいです。



一口メモ

「源氏ボタル」の語源

源氏ボタルはもともと験師(ゲンジ)ボタルと呼んでいた。このことは、験師、いわゆる「山伏」のことで、大きなホタルの見事さをほめたたえる意味でこの名が贈られたと言われています。

それがいつの間にか「源氏ボタル」となってしまった。そのせいで小さなほうを「平家ボタル」というようになったわけです。

かといって、源平合戦のようにこの二種類のほたるは争っているわけではありませんよ。

＝編集後記＝

祝！ 「うずまのほたる」第20号発行！ 今回から文字が大きくなり読みやすくなりました。

これからも「うずまのほたる」宜しくお願いします。

—うずまのほたる— 広報班

神山 芳典・神山 宜久・田波耕太郎・松沼 由美・小川 真美
前田 秋子・荒井 淑恵 ・田澤 均・大熊 幸子